

がん検診

■ 胃がん検診（職域・地域）

デジタルX線撮影および内視鏡（施設検診のみ）による胃がんのスクリーニング。当協会が一次検診から精密検査まで実施する団体（Aグループ）と一次検診のみを実施する団体（Bグループ）を設定し、二次検査・精検から事後フォローまで一貫したシステムを構築している。近年、胃がん検診として推奨されている内視鏡検査については、年々その数が増加しているため医師、コメディカルのスタッフを増員し受入体制の拡充をはかっている。

地域検診では、当協会は専門医・放射線技師・事務スタッフが地域医師会での読影会に参加し、読影精度の向上に協力している。また住民検診を行う検診機関の精度管理の向上や行政、医師会をはじめとする関係機関との連携協調を図る「神奈川県消化器がん検診機関一次検診連絡協議会」の事務局を担当している。神奈川県下14市町村より委託を受け、検診車による検診を実施。14,634名（男性6,509名、女性8,125名）が受診し31例（男性23、女性8）のがんを発見し、がん発見率0.212%、陽性反応的中度2.92%であった。

■ 大腸がん検診（職域・地域）

問診と免疫学的便潜血反応2日法による大腸がんスクリーニング。大腸がん検診は厚生労働省の研究班により有効性が証明されており、侵襲性の低い優れたスクリーニングである。平成29年度、職域では77,272名（男性53,562名、女性23,710名）が受診し、要精検率は4.8%であった。

地域では平成4年度より老人保健法に大腸がん検診が加わり、平成14年より健康増進法に基づく健康増進事業として市町村が主体となって実施されている。今年度検診を受託した自治体は14市町村で16,994名（男性6,639名、女性10,355名）が受診。39例（男性20、女性19）のがんを発見し、がん発見率は0.23%、陽性反応的中度は3.7%であった。

■ 超音波検診

腹部内臓の病変を発見するための超音波検査。一般健診と同時実施が可能であり、職域での実施が主となっている。腹部の実質臓器（肝臓、膵臓、腎臓、脾臓、胆のう、腹部大動脈）のみならずリンパ節、膀胱、子宮、卵巣、前立腺、腸管等、腹腔内の様々な臓器の状態を把握することが可能であり対象臓器以外の所見を副次的に拾いあげることも少なくない。判定内訳では、要医療となる「要受診」「主治医継続」群が合わせて1.9%、要医療となる可能性が高い「要精密検査」1.5%、それ以外のなんらかの所見を有する群は73.3%、まったく所見の無い「異常なし」群は23.4%であり、毎年ほぼ同様な傾向にある。当協会では、有所見者については専門医と超音波検査技師による精密検査の実施、さらには医療機関との連携によるフォローアップを行っている。

■ 肺がん検診（職域・地域）

胸部X線撮影と喀痰細胞診（ハイリスク者のみ）による肺がんのスクリーニング。専門医による二重・比較読影を行っている。

地域保健では地域医師会の精密検査フィルム読影会にも参加、精度管理に協力している。

厚木市では平成13年度、大和市では平成20年度より医療機関で直接撮影を実施し、当該施設の医師による一次読影、当協会の専門医による二次読影の体制により、読影結果を医療機関へフィードバックしている。精密検査と判定された画像は医師会と合同で再読影するトリプルチェック体制がとられている。今年度検診を受託した自治体は9市町村で6,946名（男性2,995名、女性3,951名）が受診。9例（男性5、女性4）のがんを発見した。

■ 子宮がん検診（施設、地域・車検診）

施設での検診は診察（内診を含む）・細胞診による子宮頸部および体部のスクリーニング。希望によりHPV検査を行っている。内診により発見される子宮筋腫や頸管ポリープなど一般婦人科疾患も事後フォローをしている。

車検診は診察・細胞診による子宮頸部のスクリーニング。県内の5大学病院と県立がんセンターの婦人科腫瘍専門医からなる「子宮がん車検診実施検討会」を組織し、精度管理・向上に努めている。診察・細胞採取・診断は同検討会の各大学病院婦人科医師が実施。当協会は「国際細胞検査士」によるスクリーニングと細胞診専門医により精度の高い細胞診断を担当している。今年度検診を受託した自治体は18市町村で16,382名が受診。4例のがん、59例の異形成を発見した。

■ 乳がん検診（施設・地域）

施設での検診は年齢に応じて視触診及びマンモグラフィ・乳腺超音波検査のいずれかを実施、精密検査まで総合的に行っている。平成18年度より、“ピンクリボンかながわ”事務局としてNPO法人乳房健康研究会と共に、乳がんの早期発見・早期治療を目指し、乳がん検診受診率向上と乳がんについて知識の普及・啓発活動を行なっている。

検診車による地域での検診は、国の指針に準拠し年齢に応じてマンモグラフィ検診を実施。読影は「神奈川県乳がん集団検診協力医療機関連絡会」の指導のもとづき、日本乳がん検診精度管理中央機構の検診マンモグラフィ読影認定医師が実施している。今年度検診を受託した自治体は18市町村で14,146名が受診。35例のがんを発見した。

■ 神奈川からがんをなくす会・ACクラブ

会員制のがん検診組織。ACとはAnti Cancerの略。「神奈川から肺と胃のがんをなくす会」を前身として1976年に発足した。消化器（胃・大腸）がん・肺がん・乳がん・子宮がんの早期発見・治療を目指し、会員専用フロアとスタッフを配し、経年変化を追ったきめ細かい対応を行っている。